

平成 22 年度健康づくり推進協議会会議録

1 開催日時

平成 22 年 7 月 29 日(木) 午後 3 時～午後 4 時 30 分

2 開催場所

成田市赤坂 3 丁目 1 - 3 番地

成田市保健福祉館 会議室 1・2

3 出席者

(委員)

橘会長、国保副会長、林田委員、井上委員、吉岡委員、石井委員、飯田委員、小森委員、大野委員

(事務局)

佐久間健康こども部長、相川健康増進課長、野平主幹、小川副主幹、櫻井主査、小野主査、三橋主査

4 議事

- (1) 新任委員への委嘱状交付
- (2) 報告第 1 号 平成 21 年度健康増進課事業実績報告について
- (3) 報告第 2 号 平成 22 年度健康増進課事業について

5 議事の内容

- (1) 役員交替による新任委員への委嘱状の交付

吉岡 正之氏（成田市青年会議所理事長）、石井 通子氏（学校及び事業所代表）
大野 金夫氏（知識経験者）

- (2) 報告第 1 号 平成 21 年度健康増進課事業実績報告について

資料により事務局より報告（添付省略）。

林田委員：在宅訪問歯科診療については既に 10 年実績があるが事業実績が少なく、いつも費用対効果について問われる事業である。歯科医師会としても利用実績が伸びるよう頑張っているが、是非行政からの PR もお願いしたい。

国保委員：医師の意見書に訪問歯科診療の必要性にチェックを入れるところがあるが、医師自体、知らない人が多い。

橘委員：医者に対する啓蒙も必要となるのでは。

橘委員：成田市において虐待で発見される数について把握できているか。

事務局：数は即答できないが、転入で他の児童相談所から連絡がくることもあり年々増加している。

橘委員：予防接種の接種率が成田市は低いと聞いているがどうなっているか。

事務局：直接把握はしていないが、接種率は 75% から 80% くらい。予防接種の未接

種者について2歳・4歳ではがき通知を出している。

橘委員：自殺の数は？

事務局：特に多いというわけではない。

(3) 報告第2号 平成22年度健康増進課主要事業について

別添資料により事務局より説明。

国保委員：医療相談ほっとラインについて、苦情等はあるか。

事務局：現在のところ特にない。

国保委員：精神疾患の方などは普通にやり取りができないことが多い。ほっとラインから「病気だから病院へ行け」と言われた、という方がいた。

事務局：確かにストレスやメンタルについての相談は多く、少しでも早く病院へ、という意味だった可能性もある。電話の中で不安を取り除いていただくのが事業の目的の1つでもあるため、ほっとラインを委託している業者には伝える。

国保委員：子宮頸がんワクチン接種について、対象年齢はこれでよいか。

事務局：一番有効な時期が十代前半といわれ、成田市は他市町村に比較し、対象年齢が幅広い。

国保委員：ヒブワクチン助成について、3か月で160人、予算は150万円程度と思われるが少ないのではないか。

橘会長：ワクチンの供給量が不足していることもあるだろう。

事務局：予算的には840万円を計上している。

国保委員：特定健診について、検診の中でこれをやってはいけない等あるが、国の法律によるものか。

事務局：法律によるもの。しかし、現在の特定健診は混合受診が可能なので必要であれば主治医の指示で検査も可能である。

小森委員：仕事のない人の方が病気を抱えている。現在実施している、こころの健康相談などはアピールが大事と思われる。

(4) 平成22年度健康づくり講演会の実施予定について

開催時期：平成23年1月30日（日）

内 容：「自殺予防について」

6 傍聴

(1) 傍聴者

0人（うち記者0人）

7 次回開催日時(予定)

平成23年3月

(別添)

報告第2号 平成22年度健康増進課主要事業について

1. 医療相談ほっとライン事業について

成田市医療相談ほっとラインは、市民が自己の健康に対する不安を解消できるよう、成田市独自のフリーダイヤル番号により 24 時間 365 日無料で、健康、医療、子育てなどの相談に、医師や保健師等がアドバイスを行う事業として、本年5月からスタートいたしました。

相談件数：	5月 419件、6月 402件	
主な相談内容：	気になる身体の症状に関する相談	30%
	現在治療中の方の治療に関する相談	20%
	育児に関する相談	14%
	ストレス・メンタルヘルスに関する相談	14%
	家庭看護・介護相談、その他	22%

2. 子宮頸がん予防ワクチン接種費用助成事業について

最近、20代～30代の女性に急増している子宮頸がんは、唯一ワクチンで予防できるがんといわれています。このワクチンにより、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぎ、がんの発症を抑えることができます。また、発がん性HPVに感染する前の10歳代前半にワクチンを接種することで子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。

市では、本年4月から子宮頸がん予防ワクチンの接種を受けた児童の保護者に対してその費用の全部又は一部を助成しております。

接種対象者：	小学5年生以上、中学3年生以下の女子（3回接種）
助成内容：	1回当たりの接種費用の1/2の額（上限額9,000円）
申請件数：	5月5人、6月17人

3. ヒブワクチン接種費用助成事業について

細菌性髄膜炎の原因の半分はインフルエンザ菌b型（ヒブ）ということがわ

かっています。乳幼児がこの病気に罹患すると致死率は約5%に、てんかん、難聴、発育障害などの後遺症が約20%に残ります。ヒブワクチンを接種することで細菌性髄膜炎の5割の発症を予防することができます。

市では、本年4月からヒブワクチンの接種を受けた乳幼児の保護者に対してその費用の全部又は一部を助成しております。

接種対象者： 生後2ヵ月以上、5歳未満の乳幼児（1回～4回接種）

助成内容： 1回当たりの接種費用の1/2の額（上限額4,000円）

申請件数： 4月27人、5月56人、6月85人

4. 乳がん検診（30代偶数年齢の女性）の超音波（エコー）検診について

健康増進法に基づくがん検診事業の充実を図るため、市では、本年4月から、これまで視触診検査（30歳以上の女性）とマンモグラフィ検査（40歳以上の偶数年齢の女性）により実施していた乳がん検診に、30歳～38歳までの偶数年齢の女性を対象とした超音波（エコー）検査を追加いたしました。

なお、エコー検査は、乳腺の発達した若い女性、乳房の小さい女性や授乳中の乳房検査も可能であることから、30歳代の若い女性のがん対策として有効であると認められています。

検診対象者： 30歳から38歳までの偶数年齢の女性

実施方法： 完全予約制（対象者に案内文を送付）

本人負担： 1,000円

受検件数： ～6月末 エコー検査1回実施 102人

（視触診検査3回実施 328人、マンモグラフィ検査4回実施 644人）